寒冷期に流行する牛の下痢・呼吸器病に備える

岩手県中央家畜保健衛生所

現在、円安や海外情勢を背景に、家畜飼料等の生産資材の価格が高騰し、畜産経営を圧迫する状況が続いています。牛の下痢や呼吸器病の発生は、生産性を低下させ、経営をさらに悪化させる要因となります。これらの病気が流行し易い寒冷期には、少しでも農場の損失を低減させるため、予防対策を強化する必要があります。

県内で過去３年間に発生したウイルスによる下痢・呼吸器病は、牛ロタウイルス病（子牛）が最も多く、寒冷期には牛コロナウイルス病、牛 RS ウイルス病が増加する傾向がみられます。効果的な予防対策の実践には、原因を特定し、適切なワクチンや消毒薬を選択することに加え、飼養衛生管理の徹底を図ることが重要です。

１　県内で流行したウイルスによる牛の下痢・呼吸器病の特徴

令和元年度から令和３年度までに当所で検査した下痢 95 件、呼吸器病 42 件、計 137 件のうち、ウイルスが関与した症例は 85 件ありました（下表）。下痢では牛ロタウイルス病が最多の 30 件で、１年を通して子牛で多発し、牛コロナウイルス、大腸菌、クリプトスポリジウムなどとの混合感染により、症状を悪化させる例が散見されました。呼吸器病では牛 RS ウイルス病が多く、全 15 件のうち寒冷期の 11～4 月に 12 件の発生がありました。また、牛コロナウイルス病も寒冷期に発生が集中しました。本病は子牛や成牛に下痢や呼吸器病を引き起こすとともに、泌乳牛では乳量の急激な減少を伴うことがあります。本病が一度発生した農場では、毎年同時期に発生することが多く、治療や泌乳量低下により経済被害が増加します。

２　下痢・呼吸器病の検査結果を活用した予防対策の実践

下痢や呼吸器病の原因となる病原体は、ウイルスのほか細菌や寄生虫など多種におよびます。牛群に症状が確認された場合、原因を特定することで、その後の対応や対策をより効果的に実践することができます。

牛ロタウイルス、牛コロナウイルス、牛 RS ウイルスはワクチンが市販されているため、ワクチンにより農場の損失を低減することが可能です。ワクチンの免疫効果が現れるまでには時間を要すことから、牛群で病気が流行する１か月前には接種を完了し、発生前に十分な免疫を付与する必要があります。また、栄養状態の悪化やストレスがかかる飼養環境により免疫力が低下した牛群では、下痢・呼吸器病による被害が拡大することから、飼養管理に問題がある場合はその改善を行うことが重要です。

表 県内で発生した牛ウイルスによる下痢・呼吸器病の内訳（令和元～３年度）

区分／月	下痢			呼吸器病			計
	牛ロタ	牛コロナ	その他牛ｳｲﾙｽ	牛RS	牛コロナ	その他牛ｳｲﾙｽ	
5月～10月	12	5	3	3	1		24
11月	1	2			2	2	7
12月	2			2		1	5
1月	2	5		1	1		9
2月	6	6		2	2	2	18
3月	5	2	2	3	2		14
4月	2	1		4	1		8
計	30	21	5	15	9	5	85

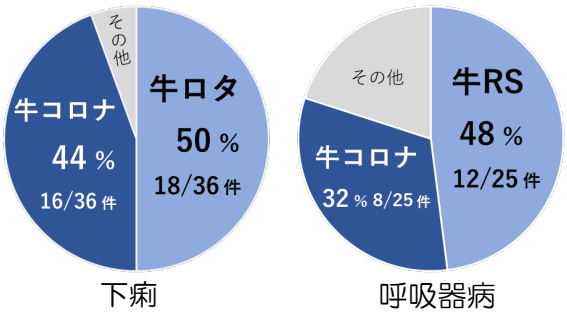

図　寒冷期（11～４月）における下痢・呼吸器病のウイルス別割合